

令和 8 年度

シ ラ バ ス

SYLLABUS

介護福祉学科

1 年生



健祥会学園
KENSHOKAI GAKUEN

目次

【領域：人間と社会】

人間の尊厳と自立	1
人間関係とコミュニケーション	3
社会と生活のしくみ	5
国際理解と情報	7
健康と生活	9

【領域：介護】

介護の基本	10
介護サービスと地域連携	12
介護のリスクマネジメント	13
コミュニケーション基礎	15
コミュニケーション応用	17
生活環境の支援技術	19
移動の支援技術	21
身じたくの支援技術	23
食事の支援技術	25
清潔の支援技術	27
排泄の支援技術	29
介護過程基礎	31
介護過程（高齢者）	33
介護過程（障害者）	35
介護総合演習（基礎）	37
介護総合演習（参加）	39
介護実習（基礎）	41
介護実習（参加）	42

【領域：こころとからだのしくみ】

こころとからだのしくみの基礎	43
移動・食事に関連したこころとからだのしくみ	44
清潔・排泄に関連したこころとからだのしくみ	46
認知症の理解	48
認知症のある人への支援	50
障害の理解	52

【領域：医療的ケア】

医療的ケア基礎	53
---------------	----

【特設科目】

ユニバーサルスポーツ	55
------------------	----

【科目名】人間の尊厳と自立

【教員名】盛 裕二

【教員の実務経験】☐有

■無（地域包括支援センター、居宅介護支援等相談業務、介護保険施設等管理者及び経験、社会福祉士資格を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】■講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】「人間」の理解を基盤として、人間としての尊厳の保持と自律・自立した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 人間の尊厳とは何か、自立とは何かの理念が分かり、それらを規定する法律の意味するところが説明できる。
2. 介護における人権について、擁護と侵害を具体例から抽出して問題点と改善方法を提示できる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（80%）☐小テスト ☐課題レポート ■その他（演習課題 20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授 業 内 容	教員名
1	なぜ「人間の理解」が必要か	介護の仕事において人間を深く、そして広く理解することの必要性を考える	盛 裕二
2	人間の尊厳	人間の尊厳とはどういうことか深く考える	〃
3	人権思想の流れ	自由権、社会権（生存権）が認められるようになった歴史的経緯について学ぶ	〃
4	日本国憲法とその理念実現のための法律	日本国憲法の幸福追求権、生存権について学び、その理念実現のための福祉に関する法律の制定意図を理解する	〃
5	戦前までの人権・福祉理念	生存権が認められるまでの歴史的経緯（戦前）について学ぶ	〃
6	戦後の人権・福祉理念	生存権が認められるまでの歴史的経緯（戦後）について学ぶ	〃
7	人権保護と諸問題	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ADL から QOL への流れと生命倫理について学ぶ	〃
8	介護における権利擁護	介護を必要とする人への権利擁護について、日本国憲法に基づいて理解し、事例を通して価値のジレンマについて考える	〃
9	権利侵害	権利侵害が起こる状況について事例を交えて考える	〃
10	権利侵害の背景	権利侵害が起こる背景と身体拘束・虐待について学び、権利擁護の視点について考える	〃
11	自立・自律の意味	経済的、精神的、身体的、社会的自立について考え、自律と自立の意味を考える	〃
12	本人主体の観点から自立・自律を考える	依存をしていますが自立しているとはどういうことか、IL 運動と事例をもとに、自己選択・自己決定について考える	〃
13	介護における自立支援の実践	ICF に基づいた、できること・したいことに着目した意欲を引き出す自立支援のあり方考える	〃

14	介護における尊厳の保持	事例を通して利用者の尊厳の保持とはどういうことか、介護福祉の倫理観とはどういうことかについて考える	〃
15	尊厳のある暮らし	尊厳のある暮らしをすることはどのようなことか、高齢者の意識や気持ちを理解し、介護者がとるべき態度について考える	〃

【授業時間外の学習】日常生活の中でも人間の尊厳・人権を意識した行動に努める。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加・発言をし、自身のこととして深く考えることを求める。

【科目名】人間関係とコミュニケーション

【教員名】佐藤 淳史、四宮 俊生

【教員の実務経験】☐有

☒無（介護福祉士の資格及び経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】☒講義 ☒演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】介護福祉士という対人援助職にとってコミュニケーションは最も大切なものの1つである。対利用者に限らず家族や同僚などとの円滑なコミュニケーションも業務にとって不可欠である。人間関係においてコミュニケーションがなぜ必要なのか、人はどのようにしてコミュニケーションをとっているのかといったことについて、人の発達や認知についての学習を通して心理的支援を踏まえた対人コミュニケーションを学習する。また、組織におけるコミュニケーションの重要性についても学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 人間関係の中での自分と他者の違い、自分がどのような人間なのかを認識し、人間関係形成の方法を理解できる。
2. 人の発達や他者・集団との関わりに伴う人間関係の広がり理解できる。
3. コミュニケーションの特性や構造、手段を理解できる。
4. 援助者としてのコミュニケーションの基本的態度を理解できる。
5. 組織におけるコミュニケーションの特徴と求められる事柄を理解できる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】なし

【成績評価】☒定期試験（80%） ☐小テスト ☒課題レポート（10%） ☒発表（10%） ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	人間とコミュニケーション	コミュニケーションはなぜ必要なのかについて考える	佐藤 淳史
2	自分と他者	自分と他者を理解することの意味について学ぶ	〃
3	人間関係形成に必要なこと	自己覚知とジョハリの窓、自己開示とラポールの形成について学び、人間関係形成に必要なことについて考える	〃
4	発達心理学から見た人間関係	エリクソンの発達段階説を通してパーソナリティの発達と人間関係について学ぶ	〃
5	社会心理学から見た人間関係（対人認知）	人間関係における対人認知と感情について考える	〃
6	社会心理学から見た人間関係（集団）	集団の特徴とそこでの人間関係について考える	〃
7	対人援助の基本原則	バイステックによるケースワークの7つの原則について学ぶ	
8	対人関係におけるコミュニケーション（基本構造）	コミュニケーションの概念、基本構造について学ぶ	〃
9	対人関係におけるコミュニケーション（手段）	言語的、非言語的コミュニケーションの手段について学ぶ	四宮 俊生
10	援助者としてのコミュニケーション	人間関係の発展・後退とコミュニケーションについて学ぶ	〃

11	対人援助における基本的態度	受容、共感、傾聴の意味について考える	〃
12	組織におけるコミュニケーション①	組織の4つの条件（目的、役割、地位、関係）とコミュニケーションの特徴について学ぶ	〃
13	組織におけるコミュニケーション②	組織における情報の流れを学び、求められる能力について考える	〃
14	組織におけるコミュニケーション③	組織において求められるコミュニケーションについて考える	〃
15	組織におけるコミュニケーション③	演習発表	〃

【授業時間外の学習】 授業前には予習を行い、授業後は必ず復習をして理解を深めておくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加し、多くの発言をすること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】社会と生活のしくみ

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】☐有

■無（介護福祉士の資格及び経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】■講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることを学び、対象者の生活の場としての地域という視点から地域共生社会や、地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。

【到達目標】学生は対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、個や家族、集団や社会について理解し社会福祉との関わりを学ぶと共に、社会保障制度やその歴史的展開を理解し、介護福祉士としての役割を自覚することができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座2 社会の理解 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】担当教員作成のレジメ・資料

【成績評価】■定期試験（90%） ☐小テスト ■課題レポート（10%） ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	生活を幅広くとらえる	人間と社会を多面的に捉え、社会生活を機能的に捉える視点について理解する。	佐藤 淳史
2	ライフスタイルの変化	個人・家族・地域・社会のしくみと、構造や形態、機能の変化を踏まえ、家族間の多様化を理解する	〃
3	社会・組織の機能と役割	家族の機能と役割について理解する	〃
4	地域・地域社会	組織の機能と役割、エンパワメントについて理解する。現代社会における産業化・都市化・過疎化について理解する。また、自助、互助、共助、公助について理解する	〃
5	地域社会における生活支援	地域共生社会や、地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみについて理解する	〃
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策① 地域福祉の発展	地域福祉の発展行政と住民が協働する新しい福祉の姿としての地域福祉について理解する	〃
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策② 地域福祉の発展	地域社会と福祉施設の役割福祉避難所、地域交流の現状	〃
8	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③ 地域共生社会	災害と地域社会	〃
9	地域共生社会の実現に向けた制度や施策④ 地域共生社会	地域共生社会の中で、介護福祉士の立場から、どのような地域づくりをめざすべきなのか理解する	〃
10	地域共生社会の実現に向けた制度や施策⑤ 地域包括ケア	地域包括ケアの考え方が出てきた背景と、目指す介護のあり方を理解する	〃

11	社会保障制度①	社会保障の基本的な考え方、私たちの生活と社会保障の関係性や必要性について理解し、社会保障制度の範囲や種類について知り、その目的や機能について理解する	〃
12	社会保障制度②	社会保障制度の給付と負担について理解する	〃
13	社会保障制度③	各社会保障制度の種類について、体系的に学び、社会保障制度の概要を知る	〃
14	社会保障制度④	社会保険、社会扶助について理解する	〃
15	社会保障制度⑤	社会保障制度における負担と給付について学び、持続可能な社会保障制度について考える	〃

【授業時間外の学習】学習会・研修会・講演会等に多く参加し実践から学ぶこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は内容を理解することに努め、疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】国際理解と情報

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】☐有

■無（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が講義、演習を行う。）

【授業方法】■講義 ■演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】介護現場にはすでに外国人介護職員が多数おり、背景の文化・習慣の違う者が協働している。これからは介護施設において外国人利用者も増えてくると考えられるため、文化・習慣を含めた人間の理解が不可欠である。また、介護現場では業務の効率化や情報共有において ICT の活用が進んでいる。本講義では、世界に目を向け外国人と円滑なコミュニケーションをとるために異文化を理解すること、および数多の情報の中から有用なものを抽出してそれらを解釈し、自ら発信していくために、ICT を活用できる技術を習得することで、日本の介護の未来を考える能力を養うことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 異文化を理解し、外国人とのコミュニケーションの留意点が理解できる。
2. 情報の取捨選択ができ、インターネットリテラシーを理解して行動できる。
3. Microsoft Word の基本的な使用法が分かり、文書作成ができる。
4. Microsoft Powerpoint を使用して資料作成ができ、聞き手に伝わるプレゼンテーションができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料紹介

【成績評価】☐定期試験 ☐小テスト ☐課題レポート ■その他（演習課題と発表 100%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	ICT を用いた連絡と受講の準備	連絡網としての LINE グループの作成と、Zoom を使ってリモートで授業を受講するための準備	佐藤 淳史
2	異文化理解①	外国の文化・習慣の日本との違いを調べ、協働するためにどんなことが必要かを考える（発表資料作り）	〃
3	異文化理解②		〃
4	異文化理解③	外国の文化・習慣についての発表	〃
5	情報機器の基本	コンピュータの仕組みや PC、タブレット、スマートフォン、ソフトウェア、ストレージなどの情報機器の基本について学ぶ	〃
6	インターネットリテラシー	著作権・インターネットリテラシーについて学ぶ	〃
7	情報収集の方法と留意点	情報の収集方法と正しい情報の選択・収集・解釈の留意点を学ぶ	〃
8	文書作成の基礎	Word の基本的な使い方と、読み手を意識したわかりやすい文書を作成するために必要な基本事項を学ぶ	〃
9	文書作成	文書を作成する	〃
10	文書作成	報告書形式の文書を作成する	〃
11	発表資料作成の基礎	見聞きする者が理解しやすい発表資料の作成のコツとパワーポイントの使用法を学ぶ	〃
12	発表資料作成①	各自のテーマに合わせた発表資料をパワーポイントで作成する	〃
13	発表資料作成②		〃

14	プレゼンテーション (発表) ①	作成したパワーポイント資料を使ってプレゼンテーションを行う。また、他者のプレゼンテーションの評価も行う	〃
15	プレゼンテーション (発表) ②		〃

【授業時間外の学習】各自英語の発音練習をすること。コンピュータの使用に不慣れな者は自主的に習熟練習をすること。授業前には予習を行い、授業後は、必ず復習をして理解を深めておくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習はできるだけその時間内に終わるよう努めること。英語を話すことと発表することの目的を意識して、堂々と表現すること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】健康と生活

【教員名】河野 磨

【教員の実務経験】☐有

☒無（健康運動士としての経験を有する教員が演習を行う。）

【授業方法】☒講義 ☒演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】「健康」でいるためにはどうしたらよいかを運動、栄養の観点から学ぶ。自らの健康意識を高め、機能解剖学・介護予防運動について学ぶ。

【到達目標】

1. 機能解剖学を理解し、目的に沿った運動プログラムの作成ができる
2. 運動の必要性を理解し、運動習慣を身につける
3. 介護予防運動の指導ができる

【教科書】無し（資料配付）

【参考書等】無し（資料配付）

【成績評価】☒定期試験（100%） ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 身体運動の機能解剖学①	授業内容の説明、「健康」「運動」「機能解剖学」	河野 磨
2	身体運動の機能解剖学②	上半身の主な筋肉について&ストレッチ実践	〃
3	身体運動の機能解剖学③	下半身の主な筋肉について&ストレッチ実践	〃
4	身体運動の機能解剖学④	目的別ストレッチメニューの作成	〃
5	ペアストレッチの実践	座学・実技	〃
6	食事・栄養管理の方法①	三大栄養素・カロリー計算方法	〃
7	食事・栄養管理の方法②	三大栄養素・カロリー計算方法	〃
8	体幹バランストレーニング ①	座学・基礎編	〃
9	体幹バランストレーニング ②	座学・転倒予防編	〃
10	体幹バランストレーニング ③	体幹バランストレーニングメニューの作成	〃
11	貯筋運動について①	座学・実技	〃
12	貯筋運動について②	座学・実技	〃
13	スポーツ遊び実践①	スポーツ遊びを考える・発表する① (パートナー アリーナ・研修室)	〃
14	スポーツ遊び実践②	スポーツ遊びを考える・発表する② (パートナー アリーナ・研修室)	〃
15	スポーツ遊び実践③	スポーツ遊びを考える・発表する③ (パートナー アリーナ・研修室)	〃

【授業時間外の学習】授業の内容を復習し、基本的事柄を整理し理解しておく。運動については自ら実践する。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・実技は運動できる服装で受講し積極的に参加する。（簡単な筋力トレーニング・ストレッチ等は実際に行ってもらおう）
- ・イヤリング・ネックレスは安全のため外しておく。長い髪は束ねておく。長い爪は切っておく。
- ・授業中はスマホ禁止（急を要する場合は考慮する）。

【科目名】介護の基本

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】■有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が講義を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解することを目的とする。また、地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する事を目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、説明することができる。
2. 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について、自分の考えを述べることができる。
3. 介護福祉士の定義、機能と役割、活動の場、職能団体の意義について説明することができる。
4. 地域や施設・在宅、介護予防、看取り、災害時等の様々な状況における介護福祉士の役割を説明することができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 第3版. 中央法規出版, 2026

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（90%） ■課題レポート（10%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション	自己の「介護」に対する考えについて	佐藤 淳史
2	介護福祉とは	介護の成り立ち	〃
3	介護の専門職	専門職による「介護」が誕生した社会的背景	〃
4	介護概念の変遷 1970～1980年代	介護サービスの量、質の向上について	〃
5	介護概念の変遷 1990～2000年以降	介護実践における概念について	〃
6	介護福祉の理念	介護福祉の理念、尊厳を支える介護とは	〃
7	自立を支えるとは	自立を支える介護	〃
8	介護福祉とは	介護福祉の振り返り	〃
9	地域における介護福祉士の活動の場	地域包括ケアシステム、介護予防の支援	〃
10	医療に関する介護福祉士の活動の場	医療的ケア、人生の最終段階の支援	〃
11	災害に関する介護福祉士の活動の場	災害時の支援	〃
12	介護福祉士に関する法	社会福祉士及び介護福祉士法	〃
13	介護福祉士養成の変遷	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	〃
14	介護福祉士に関する団体	介護福祉士を支える団体	〃

15	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士役割と機能の振り返り	〃
----	-------------	-----------------	---

【授業時間外の学習】予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加し、多くの発言をすること。

【オフィスアワー】火曜日 16:30～17:30（1 号館事務室前）

【科目名】介護サービスと地域連携

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）
□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて理解することができる。
2. フォーマル・インフォーマルな支援について理解することができる。
3. 地域連携を進めるために、介護職のとるべき行動や考え方について述べるすることができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験（90%） ■課題レポート（10%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	フォーマルサービスとは①	介護サービス提供の仕組み	佐藤 淳史
2	フォーマルサービスとは②	介護保険制度における居宅サービス	〃
3	フォーマルサービスとは③	介護保険制度における施設サービス	〃
4	フォーマルサービスとは④	介護保険制度における地域密着型サービス 地域支援事業	〃
5	障害者のためのフォーマルサービスの概要	障害者総合支援法によるサービス	〃
6	フォーマルサービスとは⑤	フォーマルサービスについて振り返り	〃
7	インフォーマルサービスとは①	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係性	〃
8	インフォーマルサービスとは②	インフォーマルサービスの種類	〃
9	インフォーマルサービスとは③	インフォーマルサービスについて振り返り	〃
10	生活を支えるしくみ	地域包括ケアシステムについて	〃
11	地域連携①	地域連携の意義と目的	〃
12	地域連携②	地域連携にかかわる機関の理解	〃
13	地域連携③	地域福祉の担い手	〃
14	地域連携④	利用者を取り巻く地域連携の実際	〃
15	地域連携⑤	地域連携について振り返り	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】板書以外にもメモをとりながら集中して講義を受けること。個人、グループワークでは意欲的に取り組むこと。

【オフィスアワー】火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】介護のリスクマネジメント

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】■有（介護福祉士の資格及び実務経験を有する教員が講義を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】介護の専門職にとって、感染予防は利用者の安全を守るために重要であることや、介護従事者の健康状態が利用者の健康に影響を与えることを理解する。また、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 感染症について基礎的な知識をもち、その予防方法を理解できる。
2. 介護従事者の抱える身体、心の健康問題と健康管理について理解できる。
3. リスクマネジメントの必要性、安全確保のための基礎的な知識や事故対応が理解できる。
4. 介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】資料配付

【成績評価】■定期試験（90%） □小テスト ■課題レポート（10%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	感染症対策①	介護福祉職に必要な感染に関する知識を学ぶ	佐藤 淳史
2	感染症対策②	高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ	〃
3	感染症対策③	感染予防のための具体的な方法を理解する	〃
4	介護従事者の安全①	健康管理の意義と目的（こころの健康管理）	〃
5	介護従事者の安全②	健康管理の意義と目的（身体の健康管理）	〃
6	介護における安全の確保①	介護福祉士の責務と安全の確保について学ぶ	〃
7	介護における安全の確保②	介護の場におけるセーフティマネジメントについて学ぶ	〃
8	介護における安全の確保③	安全を重要視する組織風土の熟成について学ぶ	〃
9	介護における安全の確保④	利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える視点を学ぶ	〃
10	介護における安全の確保⑤	介護における安全の確保について事例を用いて演習により理解を深める	〃
11	リスクマネジメントについて①	尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメントについて学ぶ	〃
12	リスクマネジメントについて②	ルールや約束事を守ることの重要性について学ぶ	〃
13	リスクマネジメントについて③	福祉サービスに求められる安全、安心について学ぶ	〃
14	リスクマネジメントについて④	事故防止のための対策について学ぶ	〃

15	リスクマネジメント について⑤	リスクマネジメントについて事例を用い演習により理解 を深める	〃
----	--------------------	-----------------------------------	---

【授業時間外の学習】授業内容はしっかり復習し、次回小テストに備えること。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義・課題に対する取り組み姿勢について、厳しく指導する。

授業中は、集中して学習に取り組めるよう、日々の生活習慣を整えること。また、他者の学習の妨げになる行為はしないようすること。

【オフィスアワー】火曜 16：30～17：00（1号館事務室前）

【科目名】コミュニケーション基礎

【教員名】遠藤 春香

【教員の実務経験】■有（介護福祉士資格を有する教員が講義を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】利用者のおかれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を修得することを目的とする。また、家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を解説できる。
2. 介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本技術を理解し、実践する能力を身につける。
3. 利用者との信頼関係を深めるためのコミュニケーション能力を身につける。
4. 対人援助における目的や状況に応じたコミュニケーション能力を身につける。
5. 利用者と家族の意向を引き出し、調整するためのコミュニケーション能力を身につける。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験（100%） □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	介護におけるコミュニケーションとは	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・展開方法	遠藤 春香
2	介護におけるコミュニケーションの対象	コミュニケーションの果たす役割・介護福祉職の職務とコミュニケーション支援の対象	〃
3	援助関係とコミュニケーション	援助関係の特徴・バイステックの7原則・介護における援助関係を意識したコミュニケーション	〃
4	コミュニケーション態度に関する基本技術①	コミュニケーション態度の基本技術（傾聴・受容・コミュニケーションにおける距離）の理解	〃
5	コミュニケーション態度に関する基本技術②	コミュニケーション態度の基本技術の実践	〃
6	集団におけるコミュニケーション技術①	集団の特徴、集団でのコミュニケーションの意義・集団運営とその留意点	〃
7	集団におけるコミュニケーション技術②	集団でのコミュニケーションの実践方法	〃
8	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本①	言語コミュニケーションと言葉以外のコミュニケーションの種類と特徴	〃
9	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本②	利用者の感情表現を察する技法について理解する	〃
10	目的別のコミュニケーション技術①	動機づけ・ものの見方に変化を生み出す技術	〃
11	目的別のコミュニケーション技術②	意思決定を支援するためのコミュニケーション	〃

12	家族との関係づくり	家族と協働関係の構築・家族の気持ちの理解・家族の意向の確認と意向表出の支援	〃
13	家族への助言・指導・調整	家族を支援する視点・利用者と家族の意向の調整	〃
14	家族関係と介護ストレスへの対応	家族関係のとらえ方・家族の介護ストレスへの対応	〃
15	介護におけるコミュニケーション	介護や対人援助におけるコミュニケーション技術について振り返り、まとめを行う	〃

【授業時間外の学習】 普段の生活の中での人との関わり方を意識すること。予習及び復習には1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 板書以外にもメモをとりながら講義を受けること。個人、グループワークでは意欲的に取り組むこと。提出を求める課題については、その期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 毎週火曜日 12:30～13:00（1号館事務室前）

【科目名】コミュニケーション応用

【教員名】細田 章

【教員の実務経験】☐有

☒無（高等学校教員の経験を有する教員が演習を行う。）

【授業方法】☒講義 ☒演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】介護福祉士にとってコミュニケーション技術は利用者、家族、多職種との連携において、信頼関係の構築、的確なアセスメント、介護サービスの質等を左右する重要な技術である。本授業では障害・特性について学修し、前期に学んだ基本的なコミュニケーション技術を、様々な障害・特性に応じてどのように駆使するかについて学び、実地で適応できる能力を身に付けることを目指す。また、チームとして協働するうえで不可欠な、円滑なコミュニケーションの手段を身に付けるとともに、記録や会議等の基礎的な知識や技術を学修し、チーム内で介護福祉士としての専門性を発揮する能力を養う。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. コミュニケーション障害とは何かを理解でき、障害の原因やその特性について説明できる。
2. コミュニケーション障害のある利用者への対応方法の視点とそのポイントを具体的に説明できる。
3. 利用者の特性に応じたコミュニケーション技法を理解でき、提示事例に対して客観的、かつ具体的に説明できる。
4. 介護におけるチームのコミュニケーションの必要性と方法、留意点を関連付けて説明できる。
5. 介護における記録の意義、目的、種類、書き方と留意点等を説明できる。
6. 情報共有及び管理の意義を理解した上で、報告、連絡、相談の意義と目的、方法及び留意点が説明できる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版。中央法規出版，2022

【参考書等】なし

【成績評価】☒定期試験（90％） ☐小テスト ☒課題レポート ☒その他（演習課題 10％）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1P	コミュニケーション障害とは何か、アセスメントと支援の基本	コミュニケーションの過程を理解し、コミュニケーション障害の定義、種類、原因を理解するとともに、障害特性や情報処理のレベルに応じたアセスメントのポイントと支援の際に必要な基本的な知識・手法を学ぶ	細田 章
2	特性に応じたコミュニケーションの実際（視覚障害）	視覚障害がある人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃
3	特性に応じたコミュニケーションの実際（聴覚障害）	聴覚障害がある人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃
4	特性に応じたコミュニケーションの実際（構音障害）	構音障害がある人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃
5	特性に応じたコミュニケーションの実際（失語症）	失語症の人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃
6	特性に応じたコミュニケーションの実際（認知症）	認知症の人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃
7	特性に応じたコミュニケーションの実際（精神障害）	精神障害（うつ、統合失調症）がある人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	細田 章
8	特性に応じたコミュニケーションの実際（知的、発達、重症心身障害）	知的障害、発達障害、重症心身障害がある人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃

9	特性に応じたコミュニケーションの実際（高次脳機能障害）	高次脳機能障害がある人への支援におけるコミュニケーション技術を学ぶ	〃
10	チームのコミュニケーション（意義・目的）	介護職チーム、多職種協働チームにおけるコミュニケーションのそれぞれの意義・目的について学ぶ	〃
11	チームのコミュニケーション（報告・連絡・相談）	チームコミュニケーションにおける報告・連絡・相談について、その意義と技術を学ぶ	〃
12	チームのコミュニケーション（記録）	介護現場で実際に行われている記録（不適切ケアの記録などを含む）について学ぶとともに、タブレットやインカムなど介護現場で記録に使用されている機器についても学ぶ	〃
13	チームのコミュニケーション（会議）	会議の意義・目的を学ぶとともに、ケアカンファレンスについて、介護現場で実際に行われている方法や注意点などを学ぶ	〃
14	事例検討に関する技術	事例検討の意義・目的と実施する上での手法と留意点について学ぶ	〃
15	情報の活用と管理	情報を扱う上での技術、管理方法、個人情報保護について学ぶ	〃

【授業時間外の学習】 日常からコミュニケーションのとり方について考え、実践することを求める。

予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加・発言をし、自身のこととして深く考えることを求める。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1 号館事務所前）

【科目名】生活環境の支援技術

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】■有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための身じたくや、家事支援としての掃除・ベッドメイキング、住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備についての基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. ベッドメイキング、衣類の着脱の意義・目的を理解し、基本に基づいた実践ができる。
2. 人が安心して快適に暮らすために必要な環境整備とは何か、その意義と必要性を理解し述べるができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第3版、中央法規出版、2026

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（50%） □小テスト □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	ベッドメイキングについて	意義・目的を理解し、適切な寝具の選択の方法や身体に負担の少ない方法を学習する	佐藤 淳史
2	ベッドメイキングの実際①	ベッドメイキングデモンストレーション	〃
3	ベッドメイキングの実際②	実技練習	〃
4	ベッドメイキングの実際③	実技練習	〃
5	ベッドメイキングの実際④	実技練習	〃
6	環境整備の実際	実技確認	佐藤、河野、 上田、遠藤
⑦	介護現場における実践	介護施設でのベッドメイキングの一連の流れ、感染予防対策等について学習する	佐藤 淳史 介護施設職員
8	住まいの役割と機能	住まいの役割、生活空間について	佐藤淳史
9	快適な室内環境	安全で快適な生活環境について学習する	〃
10	安全に暮らすための生活環境	住宅内事故の現状、日常の安全対策	〃
⑪	そうじ・ごみ捨てについて	そうじ・ごみ捨ての意義を理解し、一連の流れについて学習する	佐藤淳史 市民環境政策課
12	住環境と介護保険制度	住環境整備における介護保険制度について理解する	佐藤 淳史
13	高齢者、障害者の住まい	住まいの理解と、地域とのつながりについて理解する	〃
14	高齢者、障害者の住まい・多職種連携	住まいにおける多職種連携について	〃

15	住環境における多職種連携	住環境についての振り返り	〃
----	--------------	--------------	---

【授業時間外の学習】予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加し、多くの発言をすること。

【オフィスアワー】火曜日 16:30～17:30（1 号館事務室前）

【科目名】移動の支援技術

【教員名】河野 和代

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格を有し、介護福祉士としての実務経験のある教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】人の尊厳や自立に大きく関与する移動動作は、日常生活動作や社会参加を継続するうえでなくてはならない基本動作であり、目的とする行為を達成するために行われる。対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための支援技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について、説明できる能力を身に付けることができる学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 生活支援とは何かを理解し、移動の意義、目的、ボディメカクスについて述べることができる。
2. 自立に向けた移動・移乗の介助における基本的な視点について述べることができる。
3. 自立に向けた基本的な移動介護技術（体位変換、座位、立位、歩行、車いすの移乗・移動介助等）を身に付けることができる。
4. 自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な移動の支援技術を提供することができる。
5. 個々の障害や生活環境等に応じて、福祉用具の活用や安全で安楽な移動技術について考え、汎用的な実践力を身に付けることができる。
6. 移動の介護に関して、多職種の役割を理解し、連携協働の必要性について理解することができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第3版。中央法規出版, 2026

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 第2版。中央法規出版, 2022

【参考書等】必要に応じて資料配付

【成績評価】■定期試験（50%）□小テスト □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	移動・移乗の介護の基本的理解	シラバスの説明 生活支援とは、移動の意義と目的、移動動作の基礎となっている理論、ボディメカクス	河野 和代
2	水平移動の介助	ベッド上での水平移動介助 上方・下方・水平移動、スライディングシートの活用	〃
3	体位変換介助	仰臥位から側臥位への体位変換（対面法、背面法） スライディングシート、マルチグローブの活用	〃
4	仰臥位から端座位、立位への介助	起き上がりから端座位、そして立位への介助（自立、一部介助、全介助）、立位から椅座位への介助	〃
5	端座位から立位への介助、歩行介助	歩行介助の基本、介助杖の種類、点検、杖歩行介助（平地、段差、階段）	〃
6	歩行介助	事例を用いたウォーカーケイン使用者の歩行介助	〃
7	車いすの介助	車いすの機種の特徴と基本構造、保守点検	〃
8	移乗介助①	ベッドと車いす間の移乗介助（立位保持可能な方、標準型車いす）、回転盤の使用	〃
9	移乗介助②	ベッドと車いす間の移乗介助（アームサポート脱却できる車いすを活用して）、片麻痺の方の事例を用いて	〃

10	仰臥位から車いす移乗介助まで	事例を用いて、仰臥位から端座位そして車いすへの移乗介助までの一連の介助	〃
11	仰臥位から車いす移動介助まで	事例を用いて、仰臥位から端座位、車いすへの移乗、車いす移動介助まで	〃
12	実技確認	事例を用いた移動介助に関する実技確認	河野・上田・佐藤・遠藤
13	移乗介助③	実技確認の振り返り スライディングボードを活用した移乗介助	河野 和代
⑭	全介助者への移乗介助	移乗リフト等を活用した移乗介助、全介助者への移乗介助	河野 和代 介護施設職員
15	歩行介助 まとめ	床からの立ち上がり介助、パーキンソン病の方への歩行介助、移動に関する多職種連携、まとめ	河野 和代

【授業時間外の学習】技術力向上のためには反復することが重要なことから、介護実習室の使用時間を確認し、効率よく復習すること。また、利用者の思い、こだわり、生活状況に応じた根拠に基づく介護を実践できるよう、他の科目と関連づけて理解を深めること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】教室は、利用者の居室と想定し、きれいに使い、物品を大切に扱うこと。演習では、身だしなみを整え、利用者に不快感を与えない、けがをさせない服装、整容で臨むこと。生命、人生、生活を護る専門職としての自覚を持ち、真剣に積極的な姿勢で授業に取り組むこと。

【オフィスアワー】水曜日放課後 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】身じたくの支援技術

【教員名】遠藤 春香

【教員の実務経験】■有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための整容や衣類の着脱といった身じたくの支援技術の基礎を学び、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることを目的とする。また、洗濯や裁縫、衣類の管理についても学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 整容において利用者の状況や習慣などの個別性を理解し、基礎となる支援方法が実践できる。
2. 衣類の着脱の意義・目的を理解し、基本に基づいた実践ができる。
3. 衣類の洗濯の表示や方法、裁縫、衛生管理について理解できる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会:最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅱ 第3版. 中央法規出版, 2026

介護福祉士養成講座編集委員会:最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第3版. 中央法規出版, 2026

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験（50%） □小テスト □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	身じたくについて	身じたくの種類と意義について理解する	遠藤 春香
2	衣類の着脱介助	衣服のもつ役割、衛生管理について理解し、利用者の状態に応じた衣服着脱の視点や基本的な方法・着脱に関連する自助具について学ぶ	〃
3	前開きの上衣の着脱介助の実際①	デモンストレーション・実技練習①	〃
4	かぶりの上衣の着脱介助の実際②	デモンストレーション・実技練習②	〃
5	衣類の着脱介助の実際	事例を通して学生同士で互いの実技チェックを行う	〃
6	着脱介助の実際	事例を通して着脱介助の実技確認を行う	遠藤、河野 佐藤、上田
7	上衣、ズボンの着脱介助	ズボンの着脱介助と実技評価の振り返りを行い、自己課題を明確にする	遠藤 春香
8	ベッド上での着脱介助の実際	デモンストレーション・実技練習	〃
9	整容（洗顔・整髪）	講義・実技）洗顔・整髪の意義や目的を理解し、基本的な方法を学ぶ	〃
10	整容（髭剃り、爪切り、耳掃除、口腔ケア）	髭剃り、爪切り、耳掃除、口腔ケアの意義や目的を理解し、基本的な方法を学ぶ	〃
11	整容介助の実際	爪切り、手のケア	〃
⑫	整容（化粧）	化粧の意義目的を理解し、基本的な方法を学ぶ	遠藤 春香 外部講師
13	洗濯	洗濯の意義を理解し、洗濯表示とそれに合わせた洗濯方法を学ぶ	遠藤 春香
14	裁縫、衣類・寝具の衛生管理	基本的な裁縫の方法と衣類・寝具の衛生管理の意義や方法を学ぶ	〃

15	身じたくの介護における多職種連携・まとめ	身じたくの介護における多職種連携の必要性和それぞれの役割について学ぶ 身じたくについての支援技術のまとめ	〃
----	----------------------	---	---

【授業時間外の学習】 予習、復習とともに、基本技術の習得を目指し、実技練習を積極的に行うこと。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。普段から生活に目を向けて感性を磨くこと。

【履修条件・注意事項】 実習室は利用者の居室であると考え、真摯に授業に臨むこと。介護者としてふさわしい身だしなみ、態度を意識すること。

【オフィスアワー】 毎週火曜日 12：30～13:00（1 号館事務室前）

【科目名】食事の支援技術

【教員名】上田 清人、河野 和代

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格を有し、介護福祉士としての実務経験のある教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための食事技術の基本を学ぶ。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける学習をする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 食事の意義、目的を ICF の視点に基づき、利用者の食事介護におけるアセスメントの視点を述べるができる。
2. 食事における姿勢の重要性とその根拠、及び食事の一連の過程における介護上の基礎的知識、留意点について説明することができる。
3. おいしく食べることを支える環境づくりや好みを配慮した調理、献立の工夫、福祉用具の活用等について考え、利用者の潜在能力を活かしたうえで、あらゆる状況に汎用できる基礎的な食事支援技術を身に付けることができる。
4. 食事におけるリスクマネジメントを理解することにより、その予防と対応について説明できる。
5. 食事支援における多職種の役割を理解したうえで、連携、協働することの必要性を説明することができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版．中央法規,2026

介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版．中央法規,2022

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（45%） ■小テスト（5%） □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 食事の意義・目的	シラバスの説明、自立した食事とは	上田 清人
2	自立に向けた食事の介護	食事の一連の動作を理解する、介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な食事介助	〃
3	アセスメントの視点	食事の一連の動作について学び、アセスメントの視点を理解する。食器等の自助具について学ぶ	〃
④	食事形態、食事に関する福祉用具と自助具	口から食べることの意義を考える 栄養に関する基礎知識、利用者の状態に合わせた食事形態について	〃 管理栄養士
5	食事の環境	「おいしい」と感じられる食事環境について考える	上田 清人
⑥	食事支援について考える①	おいしく食べるための口腔ケアについて	上田 清人 歯科衛生士
⑦	食事支援について考える②	状態に応じた介助の視点、誤嚥の予防のための支援について	〃
8	臥位での食事介助	ベッド上での食事介助	上田 清人
9	対象者の状態に応じた食事支援	感覚・運動・認知・知覚・嚥下機能などが低下している方への食事支援について	〃
10	利用者の状態に応じた食事介助①	食卓で行う食事介助 部分的介助が必要な方の場合	河野 和代
11	利用者の状態に応じた食事介助②	食卓で行う食事介助 片麻痺、半側空間無視のある方への場合	〃

12	視覚障害者への食事介助	視覚障害者（全盲）の方の食事支援を考える	〃
13	食事の生活支援技術①	事例を用いて、座位での食事介助の基本	河野 和代
14	食事の生活支援技術②	事例を用いた食事介助の実技評価	上田・河野 佐藤・遠藤
15	食事の生活支援技術③	事例を用いた食事介助実技評価の振り返り 食事の介護における多職種の役割と連携の必要性	河野 和代

【授業時間外の学習】 予習、復習とともに基本技術の習得を目指し、実技練習を積極的に行うこと。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。普段から生活に目を向けて感性を磨くこと。

【履修条件・注意事項】 実習室は利用者の居室であると考え、真摯に授業に臨むこと。介護者としてふさわしい身だしなみ、態度を意識すること。対象者の気持ちを常に考えた言動に努め、生活支援技術を行うこと。

【オフィスアワー】 毎週水曜日の放課後 16：30～17：30（1 号館事務室前）

【科目名】清潔の支援技術

【教員名】遠藤 春香、河野 和代

【教員の実務経験】■有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）
□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】対象者の能力を適切に活用・発揮し、自立を支援するための入浴・清潔保持についての基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 入浴・清潔保持についての意義・目的を理解し、利用者を主体とした安心、安全、安楽な入浴およびその他の清潔保持の技法について実践できる。
2. 入浴・清潔保持において利用者の状況や習慣などの個性を理解し、尊厳を守り、自立支援を可能にする支援方法が実践できる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験（50%） □小テスト □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	入浴・清潔保持の意義と目的①	（講義）入浴の効果や留意点を学ぶ	遠藤 春香
2	入浴・清潔保持の意義と目的②	（講義）異常時の対応方法を学ぶ	〃
③	機械浴槽の実際と多職種連携	（講義・演習）介護施設における自立度別介助の視点について理解する。また、入浴時における多職種連携の実際を学ぶ	介護施設職員 遠藤 春香
④	状態に応じた入浴支援	障害に応じた入浴、清潔保持の方法や道具、用具について学ぶ。また、事故の事例を通して留意点を理解する	プレゼンテーション 遠藤 春香
5	洗身介助について①	（デモンストレーション・実技練習） 座位での洗身、シャワー浴介助の方法	河野 和代
6	洗身介助について②	（デモンストレーション・実技練習） 臥床状態での洗身、機械浴槽介助の方法	〃
7	座位での手浴・足浴介助について	（講義）手浴・足浴の効果と留意点について （デモンストレーション・実技練習）手浴・足浴の介助	〃
⑧	入浴介助の実際を知る	入浴介助における生産性向上について	介護職員 河野 和代
9	洗髪介助について	（デモンストレーション・実技練習） 寝たままの状態での洗髪介助の方法	河野 和代
10	清拭①	（デモンストレーション・実技練習） 部分清拭（上半身）	遠藤 春香
11	清拭②	（デモンストレーション・実技練習） 部分清拭（下半身）	〃
12	清拭③	（デモンストレーション・実技練習）全身清拭	〃
13	事例検討	事例を通して、清潔に関する実技練習を行い、学生同士で互いの実技を確認する	〃

14	清潔保持の実技確認	事例を通して清潔に関する実技評価を行う	河野・佐藤 上田・遠藤
15	清潔保持の介助のまとめ	実技評価の振り返りと自己課題を明確にする	遠藤 春香

【授業時間外の学習】基本技術の習得を目指し、実技練習を重ねること。普段から生活に目を向けて感性を磨くこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】実習室は利用者の居室であると考え、入退室の挨拶や授業の受け方など介護者としてふさわしい身だしなみ、態度であること。

【オフィスアワー】毎週火曜日 12:30～13:00（1号館事務室前）

【科目名】排泄の支援技術

【教員名】遠藤 春香

【教員の実務経験】■有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】排泄は、生活行為として欠かすことのできないものである。また、排泄は、人間の尊厳に最も深くかかわる部分でもある。介護者はそうした排泄の介護の意義を理解し、排泄の介護を受ける利用者の精神的な負担に配慮しなければならない。本科目では、それらを踏まえた専門的知識と基本技術を習得するとともに、排泄に関して支援が必要な方の生活の質を向上するために排泄方法や用具の選択、介護内容の根拠について説明する能力を身につける。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 日常生活における排泄行為の意味を説明できる。
2. 排泄の介護における特徴と自立支援の必要性を説明できる。
3. ICFに基づき、利用者の排泄を支援するためのアセスメントができる。
4. 排泄行為の一連の流れと様々な支援方法や関連する用具・道具を説明できる。
5. 気持ち良い排泄を支えるための基本的な支援技術を実践できる。
6. 排泄介護における多職種の役割を理解したうえで、連携、協働することの必要性を説明することができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験（50%） □小テスト □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	排泄の意義と目的	排泄の生理的・心理的・文化的意義と目的について解説する	遠藤 春香
2	自立に向けた排泄の介護の視点と留意点	正常な排泄行為の一連の流れを理解し、心身の状態・状況に応じた排泄方法の適切な選択など具体的な実践方法について考える	〃
3	排泄の支援技術①	トイレ、ポータブルトイレでの排泄介助について学ぶ	〃
4	排泄の支援技術②	（実技）尿器、差し込み便器を使用した排泄介助	〃
⑤	排泄の支援技術③	おむつの選び方と正しい使い方について	王子ネピア 遠藤 春香
6	排泄の支援技術④	（実技）ベッド上でのおむつ交換の介助①	遠藤 春香
7	排泄の支援技術⑤	（実技）ベッド上でのおむつ交換の介助②	〃
8	排泄の支援技術⑥	（実技）事例を通しておむつ交換の実技確認を行う事例に基づき、適切なおむつ交換の方法を考え、実施する	〃
9	中間まとめ	事例を通しておむつ交換の実技確認を行う	遠藤、河野 佐藤、上田
10	おむつ交換のまとめ	実技評価の振り返りと自己課題を明確にし、練習を行う。	遠藤 春香
11	排泄の支援技術⑦	（実技）事例を用いたポータブルトイレでの排泄介助をグループで検討する	〃

12	排泄の支援技術⑧	(実技) 事例を用いたポータブルトイレでの排泄介助についてグループ発表を行う	〃
⑬	排泄障害がある人の介護①	講義) 尿失禁、頻尿、便秘、下痢、便失禁の種類と原因、それぞれの対応について 実技) 骨盤底筋トレーニング、陰部洗浄	王子ネピア 遠藤 春香
14	排泄障害がある人の介護②	自己導尿、浣腸、座薬、ストーマの介護方法	遠藤 春香
15	排泄の介護における多職種との連携	様々な職種が利用者の排泄に関してどのような役割を担い、介護福祉職との連携の必要性について	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には 1 時間程度を要する。基本技術の習得を目指し、実技練習を積極的に行うこと。普段から生活に目を向けて感性を磨くこと。排泄における尊厳について実習を通して考えること。

【履修条件・注意事項】 実習室は利用者の居室であると考え、真摯に授業に臨むこと。介護者としてふさわしい身だしなみ、態度を意識すること。

【オフィスアワー】 毎週火曜日 12:30～13:00 (1 号館事務室前)

【科目名】 介護過程基礎

【教員名】 河野 和代

【教員の実務経験】 ■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格を有し、介護福祉士としての実務経験のある教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 本授業は、介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する学習とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 介護過程とは何かを説明することができる。
2. 生活支援の考え方と介護過程の必要性について、自分の考えを述べることができる。
3. 介護過程の展開をするための一連のプロセスと着眼点について述べることができる。
4. ICF の理念について説明することができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第3版．中央法規出版，2026 介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版．中央法規出版，2022

【参考書等】 なし

【成績評価】 ■定期試験（100％） □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション	シラバスの説明、介護の仕事とは	河野 和代
2	介護過程の理解①	介護過程の意義・目的	〃
3	介護過程の理解②	介護過程の全体像、ICF とは	〃
4	介護過程の展開①	事例検討の必要性、A 事例を理解する	〃
5	介護過程の展開②	A 事例：基本情報の記入	〃
6	介護過程の展開③	A 事例：全体像の記入の留意点	〃
7	介護過程の展開④	A 事例：全体像の記入	〃
8	介護過程の展開⑤	A 事例：気持ちを推察する、介護上留意すること	〃
9	介護過程の展開⑥	A 事例：ICF の 11 分類シート記入	〃
10	介護過程の展開⑦	A 事例：情報の解釈・関連づけ・統合化、生活課題の明確化、医学モデルと社会モデルについて	〃
11	介護過程の展開⑧	A 事例：医学モデルと社会モデル、意欲	〃
12	介護過程の展開⑨	A 事例：主目標、介護計画書 ニーズ	〃
13	介護過程の展開⑩	A 事例：介護計画書 長期・短期目標	〃
14	介護過程の展開⑪	A 事例：介護計画書 サービス内容	〃
15	介護過程の展開⑫ まとめ	A 事例：介護計画書 サービス内容 記録、評価、再アセスメントについて	〃

【授業時間外の学習】

- ・ ICF の理念、介護過程のプロセスについて、復習をしてしっかり理解すること。また、自分自身の毎日の生活行為一つひとつの行動を意識すること。生活の中でいろんなことを思い、考えていることを意識し、まずは自分と向き合ってみることも介護過程を考えるうえで大切なことである。
- ・ 予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・ 授業中は、集中して学習に取り組めるよう、日々の生活習慣を整えること。また、他者の学習の妨げになる行為はしないこと。
- ・ グループワーク等では、積極的な参加を求める。他者の発言に耳を傾け、自己の考えを他者に伝える技術も演習の中で学ぶこと。限られた時間の中で、どのようにグループワークを進めていけばよいか、ディスカッションの運営についても学ぶこと。
- ・ 課題の提出は期限を守ること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日の放課後 16:30～17:30（1 号館事務室前）

【科目名】介護過程（高齢者）

【教員名】河野 和代

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格を有し、介護福祉士としての実務経験のある教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】本授業は、介護施設入所者の事例を通して、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学ぶ。また、介護福祉職がチームとして介護過程を展開する意義・目的についても学ぶ学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 対象となる人の情報について整理し、学習した他科目での学びの知識や技術を連動させながら対象者の全体像を捉え、対象者の気持ちを考えたアセスメントができる。
2. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護計画書が立案できる。
3. 介護福祉職がチームとして介護過程を展開する意義・目的について説明できる。
4. 自分が行ったアセスメント、介護計画書の立案について、根拠とともに自分の考えを述べるができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版．中央法規出版, 2022

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（80％） □小テスト □課題レポート ■その他（介護過程の展開様式作成 20％）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション	シラバスの説明、A 事例の利用しているサービスを理解する	河野 和代
2	事例による介護過程の展開①	A 事例：事例の理解、基本情報	〃
3	事例による介護過程の展開②	A 事例：全体像を捉える	〃
4	事例による介護過程の展開③	A 事例：全体像を捉え、介護上の留意点を考える	〃
5	事例による介護過程の展開④	A 事例：ICF の視点によるアセスメント、生活課題の明確化	〃
6	事例による介護過程の展開⑤	A 事例：医学モデル・社会モデルを考える	〃
7	事例による介護過程の展開⑥	A 事例：意欲、主目標、ニーズを捉える	〃
8	事例による介護過程の展開⑦	A 事例：介護計画書作成① ニーズ、長期・短期目標	〃
9	事例による介護過程の展開⑧	A 事例：介護計画書作成② サービス内容	〃
10	介護過程の自己課題発見	2年生のポスター発表に参加し、自己課題に気づき、課題解決に向けて目標をもつ	〃
11	事例による介護過程の展開⑨	C 事例：事例の理解、基本情報	〃
12	事例による介護過程の展開⑩	C 事例：利用者の気持ちを推察する、介護上の留意点を考える	〃

13	事例による介護過程の展開⑪	C 事例：生活課題の明確化、医学・社会モデル	〃
14	事例による介護過程の展開⑫	C 事例：医学モデル・社会モデル、主目標、ニーズを捉える	〃
15	事例による介護過程の展開⑬	C 事例：介護計画書作成、提出、まとめ	〃

【授業時間外の学習】

- ・自分自身の毎日の生活行為一つひとつの行動を意識すること。生活の中でいろんなことを思い、考えていることを意識し、まずは自分と向き合うこと。
- ・本授業は、高齢者の事例について演習する。「人間と社会」「生活支援技術」「こころとからだのしくみ」をはじめ他科目で学習したことすべてを連動して考えることができるよう、しっかり復習すること。
- ・予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・演習では、積極的な参加を求める。他者の発言に耳を傾け、自己の考えを他者に伝える技術も演習の中で学ぶこと。限られた時間の中で、どのようにグループワークを進めていけばよいか、グループの中での自分の言動について考え、グループワークを通してチームワークの在り方についても学ぶこと。
- ・課題の提出は、期限を守ること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日の放課後 16:30～17:30（1 号館事務室前）

【科目名】介護過程（障害者）

【教員名】上田 清人

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格及び、経験を有する教員が講義を行う。）
□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】障害者の生活の継続を可能にするため、介護過程の意義と基礎的理解をし、チームアプローチの必要性を学ぶ。ケアプランと個別援助計画との関係性について学ぶ。また、障害者が在宅あるいは施設生活を継続するための介護過程の事例を通して、要介護者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 障害者総合支援法におけるケアマネジメントについて説明できる。
2. 障害者のケアマネジメントと介護過程の関係性を説明できる。
3. 障害者の自立した生活を継続するための根拠に基づいた介護計画を立案することができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】必要に応じて資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート（60%） ■その他（演習発表 40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	介護過程演習	オリエンテーション、ICF、ICIDH について理解する	上田 清人
2	介護過程演習	障害者の思いや生活を理解する	〃
3	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程①	〃
4	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程②	〃
5	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程③	〃
6	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程④	〃
7	障害者のケアマネジメント	障害者総合支援法に基づく障害者のケアマネジメントについて全体像を解説する	〃
8	障害者のケアマネジメントと介護過程	障害者のケアマネジメントにおける介護過程との関係性について解説する	〃
9	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程⑤（GW）	〃
10	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程⑥（GW）	〃
11	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程⑧（GW）	〃
12	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程⑨（GW）	〃
13	介護過程演習	障害者が生活を継続するための介護過程⑩（GW）	〃
14	介護過程演習	GW で作った個別計画書の発表	〃
15	まとめ	GW で作った個別計画書の発表	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習には各1時間程度を要する。特に障がいの種類や程度、訪問・通所・施設などの事業体ごとの提供するサービス内容や方法など、未履修科目の知識が必要になるため、事前学習を行い、知識に裏付けられたグループワークを展開できるよう準備することが重要である。

【履修条件・注意事項】授業に必要なテキスト・参考書を必ず持参すること。事例検討などでは宿題を出す場合がある。演習ではグループワークが多くなるため、根拠に基づいた議論ができるよう、十分に準備をしたうえで、積極的に発言を行い、役割を果たすこと。

【オフィスアワー】火曜日 16：30～17：00（1号館事務室前）

【科目名】介護総合演習（基礎）

【教員名】細田 章、藤原 範子

【教員の実務経験】☐有

☒無（研究実績と高等学校教員の経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】☒講義 ☒演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】利用者の生活の場としての介護施設について理解を深め、介護実習（基礎）において介護の知識や技術を実践と結びつける。実習中・実習後に振り返りを行ない、自己の課題を明確にして専門職としての態度を養う。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 利用者の生活の場としての介護施設について、種別による違いを含め正しく理解している。
2. 施設での実習に臨むための実習生の姿勢を正しく理解している。
3. 実習後の振り返りを通して、客観的な自己評価ができる。
4. 各科目で学習した介護の専門的知識、生活支援技術を効果的に実習で活かすことができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】介護福祉実習要綱、資料配付

【成績評価】☐定期試験 ☐小テスト ☒課題レポート（70%） ☒その他（課題発表 30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	介護実習とは	介護実習（基礎）の目的・目標・意義・内容について	細田 章
2	実習生の姿勢 実習時の留意点	身だしなみ、態度（姿勢）、言葉遣い・時間管理・健康管理、留意すべきこと、個人情報の保護について	〃
③	実習施設について	通所系サービス・障害者支援施設の概要及び特徴について学ぶ、訪問介護について	細田 章 介護施設職員
4	自己目標	通所系サービス・障害者施設での実習における自己目標の決定	細田 章
5	感染症対策	スタンダードプリコーション、感染予防について	藤原 範子
6	実習前の準備学習	記録の必要性・意義と目的・留意点について 実習記録の書き方	細田 章
7	実習中の意見交換	各実習施設における実習内容の意見交換	〃
8	実習後の学習	通所系サービス・障害者支援施設実習の振り返り	〃
⑨	実習施設について	認知症対応型共同生活介護の概要および特徴について学ぶ	細田 章 介護施設職員
10	自己目標	認知症対応型共同生活介護施設での実習における自己目標の決定	細田 章
11	実習後の学習	実習を振り返り、目標達成状況の確認、および介護実習（参加）に向けての今後の課題の明確化	〃
12	実習後の学習	実習報告会の意義と運営、発表内容のまとめ	〃

13	実習後の学習	発表内容のまとめ（発表資料作成）	〃
14	実習後の学習	介護実習（基礎）報告会	〃
15			

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習を行い、講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまとめておくこと。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加し、多くの発言をすること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1 号館事務室前）

【科目名】介護総合演習（参加）

【教員名】上田 清人

【教員の実務経験】☐有

☒無（介護福祉士資格及び経験を有する教員が演習を行う。）

【授業方法】☒講義 ☒演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】介護実習（参加）の意義と目的を理解し、「実習前→実習中→実習後」各期における介護実習生としての基本姿勢を学び、専門職としての態度を養う。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 実習目標を意識して介護実習（参加）に主体的に臨むことができる。
2. 介護実習（参加）での体験を振り返り介護実習（総合）に向けての目標が明確にできる。
3. 介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、受け持ち利用者の気持ちを受容した介護計画を立案できる。
4. 介護福祉士に求められる職業倫理を深め、専門職としての態度を養うことができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】介護福祉実習要綱、資料配付

【成績評価】☐定期試験 ☐小テスト ☒課題レポート（50%） ☒その他（課題発表 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授 業 内 容	教員名
1	自己課題の明確化	介護実習（基礎）を通して学んだ、コミュニケーションなどの利用者との関わりを振り返り、介護実習参加に向けた実習の流れについて理解する	上田 清人
2	実習の意義・目的・内容の理解	介護実習（参加）での各自のテーマを考える	〃
3	事前準備を通しての自己覚知	実習関係書類の作成	〃
④	事前学習について	介護老人福祉施設、介護老人保健施設の概要及び特徴について理解する	上田 清人 介護施設職員
⑤	事前学習について	訪問介護の概要及び特徴について理解する	上田 清人 介護施設職員
6	カンファレンスの理解	カンファレンスの意義・注意点について	上田 清人
7	記録について	実習記録の書き方・留意点について	〃
8	実習前半の振り返りと後半に向けての修正	実習中の困りごと、介護過程について（情報分析）	〃
9		実習中の困りごと、介護過程について（計画立案）	〃
10		実習中の困りごと、支援技術の修正について	〃
11	実習の振り返り①	介護実習（参加）の振り返りのまとめ、自己評価、お礼状と報告について	〃
12	実習の振り返り②	実習を振り返り、目標達成状況や自己の課題を考える	〃
13	実習の振り返り③	GWを通じて、他者の学びを共有し、介護実習（総合）に向けての今後の課題	〃
14	学びの発表	介護実習（参加）の報告会	上田 清人
15			

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまと

めておくこと。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 毎週月曜日の昼休み 12：30～13：00（1 号館事務室前）

【科目名】介護実習（基礎）

【教員名】細田 章、佐藤 淳史、遠藤 春香、河野 和代

【教員の実務経験】☐有

■無（高等学校での教育経験（細田）、介護福祉士資格及び経験（佐藤、遠藤、河野）を有する教員が実習指導を行う。）

【授業方法】☐講義 ☐演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（90時間）

【授業概要と目的】個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解するために、利用者とのコミュニケーションを実践し、人間関係の形成を行うことができるようにする。地域における施設や機関の役割について、また、多職種連携について、生活支援の実践を通して学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 講義、演習、学校内実習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の需要に関する理解力や判断力を養うことができる。
2. 日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に各種の介護を助ける住設備機器や福祉用具の知識と活用方法を養うことができる。
3. 実習指導者の指導を受けながら報告・連絡・相談、記録の仕方について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養うことができる。
4. 施設介護実習では、施設の運営や地域における生活支援の実践、さらに要介護者・障害者等に対するサービス提供全般において、多職種連携を通じて介護福祉士としての職務について理解を深めることができる。
5. 訪問介護実習では、要介護者・要支援者の自宅を訪問し、身体面・家事面における生活援助などについて理解を深めることができる。

【教科書】なし

【参考書等】配布資料

【成績評価】☐定期試験 ☐小テスト ☐課題レポート ■その他（自己評価・施設評価・記録・面接等100%）

【授業計画】

1. 障害者施設・認知症対応型共同生活介護・通所介護等での実習について、目標を定め利用者とのコミュニケーションを図り利用者との人間的な関わりをもち理解を深める。
2. 施設の機能・構造・設備や1日の介護業務・介護体制を知る。また、行事やレクリエーション等を見学・参加し役割と援助方法を学ぶ。
3. スタッフとともに行動し、準備、かたづけ、介護方法（コミュニケーションを含む）など日常生活援助を通して安全・安楽・自立支援の介護方法を知る。
4. 介護活動の場における基本的な態度を身につけ、挨拶・報告・連絡・相談を通してチームワークのあり方について考える。
5. 介護福祉士としての倫理綱領を念頭におき、利用者の倫理的配慮を意識して実習に臨む。

【授業時間外の学習】充実した介護実習をおこなうために十分な事前学習に努めること。実習期間中も実習施設や対象者の特徴についての理解に努めること。実習後は、自身の実習を振り返り、次回の実習に繋げられるよう学習すること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】介護実習要綱の第3章「介護実習の履修」に関することを理解したうえで臨むこと。実習生として真摯に実習に臨むこと。

【オフィスアワー】施設実習巡回時

【科目名】介護実習（参加）

【教員名】上田 清人、河野 和代、細田 章、佐藤 淳史、遠藤 春香、

【教員の実務経験】□有

■無（介護福祉士資格及び経験（河野、佐藤、遠藤、上田）、高等学校での教育経験（細田）を有する教員が実習指導を行う。）

【授業方法】□講義 □演習 ■実習 □発表 □見学

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・3単位（135時間）

【授業概要と目的】学内で習得した知識と技術を知恵に変えることができる実践力を養い、心と心を繋ぐ介護福祉士として成長すること。習得した知識と技術を基に積極的に実習に参加し、介護の実践力を主体的・積極的に学ぶ。また、科学的根拠に基づいた基本的な介護技術を実践しながら、個別ケアを行うために介護計画を立案する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 実習要綱で定められている実習生としての姿勢を遵守し、介護実践力を養うための学びを主体的に行うことができる。
2. 施設の概要・介護を助ける住設備機器・福祉用具の知識と活用方法・介護方針・年間行事について知り、地域の特色や地域での生活を支える施設の役割を学びカンファレンスで述べることができる。
3. 利用者・家族と対人関係を意識したコミュニケーションで関わりを学び、実践できる
4. 実習指導者のスーパービジョンを受けながら利用者の状態像を観察・記録（身体的側面、精神的側面、環境的側面から）し、介護の基本を学び、授業で学んだ介護技術を科学的根拠に基づき安全性と快適さに配慮して実践できる。
※医療的ケア、与薬は見学のみとする
5. 実習指導者のスーパービジョンを受けながら、受け持ち利用者の情報を収集して、情報の解釈・関連付け・統合化を行い、ニーズの抽出を行い、利用者の生活課題（ニーズ）を基に介護計画を立案できる。
6. 多職種の役割と連携について関係部門の見学やサービス担当者会議・カンファレンスに参加し多職種の業務内容と役割について学び、介護職種としての役割を理解・体験したことをカンファレンスで述べることができる。

【教科書】なし

【参考書等】資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他（自己評価・施設評価・記録・発表等100%）

【授業時間外の学習】効果的な介護実習を行うために実習前・中は、あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・介護実践の根拠を理解したうえでの技術を習得するよう学習する。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】介護実習要綱の第3章「介護実習の履修」に関することを理解したうえで臨むこと。

【オフィスアワー】施設実習巡回時

【科目名】 ころとからだのしくみの基礎

【教員名】 津田 祐子

【教員の実務経験】 ☒ 有（看護師資格及び臨床経験を有する教員が講義を行う。）

☐ 無

【授業方法】 ☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】

1. 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する学習とする。
2. 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 人体の基本的構造及び機能について述べることができる。
2. 生命の維持・恒常性について学ぶことができる。
3. ころを働かせる脳のしくみについて知り、介護における留意点や心理的側面への配慮について説明ができる。

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】 適宜紹介する

【成績評価】 ☒ 定期試験（100%） ☐ 小テスト ☐ 課題レポート ☐ その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	健康とは	健康の定義、健康づくり、健康観、健康阻害の要因	津田 祐子
2	人間の欲求	基本的欲求・社会的欲求、理解、自己実現と尊厳	〃
3	ころ・脳・記憶	「ころ」、脳の機能局在、認知、学習・記憶のしくみ	〃
4	意欲・動機づけ	意欲、動機づけ、適応のしくみ、高齢者の人格のしくみ	〃
5	人体の構造:機能	体のつくりの理解、人体の構造と機能について	〃
6	細胞・脳・神経	細胞、遺伝、脳・神経（中枢神経・末梢神経）等について	〃
7	感覚器について	視覚器・平衡感覚器、聴覚・味覚・皮膚について	〃
8	呼吸器・循環器	呼吸器・循環器の基本的な構造や機能について	〃
9	消化器・泌尿器	消化器・泌尿器の基本的な構造や機能について	〃
10	骨・関節	骨、筋肉、神経系の基本的な構造や機能について	〃
11	筋肉・神経系	筋肉・神経系の基本的な構造や機能について	〃
12	生殖器・内分泌 下垂体・膵臓等	生殖器、内分泌、下垂体、甲状腺、膵臓の働きについて	〃
13	血液・体液・リンパ液	血液、体液、リンパ液等の働きについて	〃
14	生命維持のしくみ	生命維持と恒常性、心身の調和、必要な薬の知識を学ぶ	〃
15	まとめ	振り返り	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【科目名】移動・食事に関連したところとからだのしくみ

【教員名】津田 祐子

【教員の実務経験】■有（看護師資格及び臨床経験を有する教員が講義を行う。）

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】

1. 人間が社会生活を営むうえで基礎となる移動動作には、起き上がる、座る、立つ、歩くがあり、身体の重心の位置を変化させなければならない。そこで、介護技術の根拠となる人体の構造や機能、利用者の様々な状態に応じた安全面への配慮について理解する学習とする。
2. 食事とは、栄養を摂取し人間が生命を維持活動し、成長をするために必要な栄養素を摂る行為である。利用者が安全な食事をするための留意点を学び実際の介護に役立てられる学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 人の活動・移動に関する基礎知識について述べることができる。
2. 機能低下や障害が及ぼす活動・移動の影響について説明できる。
3. 食事に関連した基礎知識について述べることができる。
4. ところやからだの機能低下や障害が食事に及ぼす影響について説明できる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ 第2版。中央法規出版，2022

【参考書等】適宜紹介する

【成績評価】■定期試験（100％） □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 移動動作に必要な力	人が移動する必要性や移動の効果を考える。 力のつりあい、トルクと体位交換、てこの原理について	津田 祐子
2	姿勢とバランス	姿勢の種類、バランス、良肢位、ポジショニング	〃
3	ボディメカニクス	ボディメカニクスの基本原理について	〃
4	安全・安楽な移動	立位・座位保持・歩行のしくみ、筋力・骨の強化	〃
5	移動に関する機能低下・障害の要因	精神機能低下、身体機能低下が移動に及ぼす影響 障害の要因の理解	〃
6	心身の機能低下・障害が移動に及ぼす影響	廃用症候群、褥瘡、麻痺、円背による機能低下 変化への気づきと対応、医療との連携	〃
7	移動に関連した心と身体 のしくみのまとめ	生活支援技術への適応、運動が及ぼす身体への負担、移動に関連した心と身体 のしくみのまとめ	〃
8	食事への基礎知識	食事の意義と目的、身体をつくる栄養素、一日に必要な 栄養素、一日に必要な水分量	〃
9	食べるしくみ	摂食・嚥下のプロセス、誤嚥予防の留意点、	〃
10	消化のしくみ	消化・吸収のプロセスについて	〃
11	治療食	カロリー制限食、塩分・資質の制限食、たんぱく制限食	〃
12	心身機能低下が食事に及ぼす影響	精神機能/心身機能低下の具体的内容の理解、食事動作 に影響する要因について	〃
13	緊急性を伴う異常	誤嚥、窒息	〃
14	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	精神機能/心身機能低下の具体的内容の理解、食事動作 に影響する要因について	〃

15	まとめ	食事に関連した心と身体のしくみの生活支援技術への 適応、移動・食事の支援技術授業の振り返り	〃
----	-----	--	---

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまとめおくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【科目名】清潔・排泄に関連したところとからだのしくみ

【教員名】佐藤 淳史、河野 和代

【教員の実務経験】☐有

■無（介護福祉士、介護支援専門員の資格及び実務経験のある教員が講義を行う。）

【授業方法】■講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】身じたくは、外部環境や危険物から身を守る、体温調節、清潔保持、生活のリズムを作ることなど精神面にも大きく影響するものである。清潔、排泄の介護を行う際には、利用者の個別性を尊重し、その人らしい健康な生き方ができるよう支援することが重要である。ここでは、身じたくや身体の清潔保持、排泄における生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する学習、および介助時における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 身じたくに関連したところとからだの基礎知識が身につく学習とする。
2. 身じたくや清潔保持に関連したところとからだのしくみが説明できる。
3. 機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響について学ぶことができる。
4. 排泄に関連したところとからだの基礎知識が身につく学習とする。
5. 排泄に関連したところとからだのしくみが説明できる。
6. 心身機能の低下・障害が排泄行為に及ぼす影響について学習し介護に生かす方法を考える。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】適宜紹介する

【成績評価】■定期試験（100%） ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	入浴・清潔の保持のしくみ	入浴・清潔の保持のしくみと意義 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	佐藤 淳史
2	心身機能と入浴・清潔保持	精神・身体機能の低下が入浴・清潔に及ぼす影響	〃
3	入浴・清潔保持における変化の気づきと対応	入浴が身体に及ぼす負担、 皮膚・循環器・呼吸器の観察のポイント	〃
4		入浴前・中の観察のポイント	〃
5	入浴・清潔保持における医療職との連携	入浴後の観察のポイント 入浴・清潔保持における医療職との連携と緊急対応	〃
6	排泄のしくみ	なぜ排泄をするのか 排泄に関連したところとからだのしくみ 排泄のしくみと正常な排泄行為	河野 和代
7	心身機能と排泄①	精神、判断力の低下が排泄に及ぼす影響	〃
8	心身機能と排泄②	身体機能の低下が排泄に及ぼす影響	〃
9	排泄における変化の気づきと対応、連携	排泄における観察のポイント 排泄における医療職との連携（便の性状、皮膚、褥瘡など）	〃
10	身じたくのしくみ①	身じたくのしくみと意義 身じたくに関連したところとからだのしくみ （顔面、眼、耳、鼻）	佐藤 淳史
11	身じたくのしくみ②	身じたくに関連したところとからだのしくみ （爪、毛髪、口腔、歯・舌・口臭・洗顔）	〃

12	心身機能と身じたく	精神・身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響	佐藤 淳史
13	身じたくにおける変化の気づきと対応①	身じたくにおける観察のポイント（眼、爪、毛）	〃
14	身じたくにおける変化の気づきと対応② 身じたくで医療職との連携のポイント	身じたくにおける観察のポイント（口腔） 身じたくにおける医療職との連携と緊急対応	河野 和代
15	まとめ	振り返り	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、自己学習ノートにまとめておくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。本講義で学んだことを生活支援技術と連動して理解を深めるよう努めること。

【オフィスアワー】毎週水曜日の放課後 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】認知症の理解

【教員名】河野 和代

【教員の実務経験】☐有

☒無（介護福祉士資格及び経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】☒講義 ☒演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】本授業は、認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について学ぶ。また、医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 認知症の定義、脳病変と認知機能障害と生活障害の関係を理解し、認知症の全体像や特徴を述べることができる。
2. 脳の構造機能と症状の関係を学ぶ。老化にともなう脳の変化を知り、認知症との関連や区別すべき状態について、述べることができる。
3. 認知症の人の不安、喪失感を抱く理由を理解し、介護者のかかわり方について自分の考えを述べることができる。
4. 代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を学ぶ。また、BPSDの定義とBPSDのさまざまな背景因子を理解し、概要を知る。
5. 認知症の診断要件と重症度の評価方法について、述べることができる。
6. 認知症の予防と治療について、述べることができる。
7. 認知症を取り巻く状況を学び、認知症施策の歴史、流れ、認知症ケアの今後の方向性について、述べることができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】なし

【成績評価】☒定期試験（90%） ☐小テスト ☒課題レポート（10%） ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 認知症とは	シラバスの説明 認知症のある高齢者の現状と今後、認知症の定義、軽度認知症	河野 和代
2	脳のしくみ	脳の構造・機能、認知症の病理	〃
3	脳の構造と症状との関係	脳の構造と症状との関係、認知症と間違えられやすい症状（うつ、せん妄）	〃
4	老化と認知症	老化と認知症の関係、認知症の人の心理	〃
5	認知症の症状・診断・治療・予防①	中核症状の理解	〃
6	認知症の症状・診断・治療・予防②	生活障害の理解	〃
7	BPSDの理解	BPSDの理解	〃
8	認知症の診断と重症度	認知症の診断と重症度の評価尺度	〃
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害①	アルツハイマー型認知症、血管性認知症	〃
10	認知症の原因疾患と症状・生活障害②	レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫や脳腫瘍、その他	〃

11	認知症の治療薬	四大認知症について確認、認知症の治療（薬物・非薬物療法）と予防	〃
12	認知症の予防、認知症のケアの歴史	認知症の予防について、認知症ケアの歴史	〃
13	認知症を取り巻く状況	認知症を取り巻く状況－これまで－今－これから	〃
14	若年性認知症①	若年性認知症の事例から考える①	〃
15	若年性認知症②	若年性認知症の事例から考える②、まとめ	〃

【授業時間外の学習】

- ・しっかりと予習復習を行い、授業に臨むようにすること。
- ・本授業は、認知症の理解の基本となる。授業で学習したことは必ず復習して理解するようにすること。
- ・生活においては、認知症に関するニュースや新聞は意識して得て、介護福祉士としての支援の在り方について考えること。
- ・予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・グループワーク時は自己の考えを述べ、他者の意見に耳を傾け、主体的に学習すること。
- ・課題レポート等の提出期限は、必ず守ること。
- ・授業中は、集中して学習に取り組めるよう、日々の生活習慣を整えること。また、他者の学習の妨げになる行為はしないようにすること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日放課後 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】認知症のある人への支援

【教員名】河野 和代

【教員の実務経験】☐有

☒無（介護福祉士資格及び経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】☒講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】本授業は、認知症の人の生活及び家族や社会との関りへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながるよう学ぶ。また、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による基礎的な知識、認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族支援についても学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. パーソン・センタード・ケアについて理解し、パーソン・センタード・ケア実践のための3つのステップについて述べることができる。
2. 認知症の人の言動の背景にはさまざまな要因が影響していることを学び、認知症の人のアセスメント方法や視点について述べるができる。
3. 認知機能障害による生活への影響について学び、認知症の人の人間関係づくり、社会への参加を含めた生活障害へのケアについて述べるができる。
4. 認知症の人へのさまざまなアプローチ（ユマニチュード、バリデーション、認知症ケア・マッピング、回想法等）について、説明することができる。
5. 終末期における認知症の人の特徴を学び、認知症の人の終末期医療と介護について、自己の考えを述べるができる。
6. 認知症を取り巻く環境、認知症介護者の心の葛藤や家族の心理過程を学び、家族介護者へのレスパイトケアや対応方法について述べるができる。
7. 介護福祉職が介護現場でやりがいをもって、安心して働き続けられる環境を整備する方法を学ぶ。また、介護現場で、認知症のケアモデルを実践するための方法を述べるができる。
8. 国が認知症施策として掲げている新オレンジプランの成立経緯や、認知症推進大綱の概要を理解することができる。また、認知症の人が地域で継続して暮らすために、多職種連携と協働の必要性について述べるができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】なし

【成績評価】☒定期試験（85%） ☐小テスト ☒課題レポート（15%） ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 認知症ケアの理念と視点	シラバスの説明、認知症ケアにおける倫理、権利擁護の視点とは	河野 和代
2	認知症介護の理念	パーソン・センタード・ケアとは	〃
3	認知症当事者の視点からみえるもの	認知症の人の思い、認知症による体験が生活に及ぼす影響	〃
4	認知症ケアの実際①	認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール（ICF、ひもときシート、センター方式）	〃
5	認知症ケアの実際②	認知症の人とのコミュニケーション、VR体験	〃
6	認知症ケアの実際③	認知症の人へのケア①	〃
7	認知症ケアの実際④	認知症の人へのケア②、グループワーク	〃
8	認知症ケアの実際⑦	認知症の人へのさまざまなアプローチ（ユマニチュード、バリデーション）	〃

9	認知症ケアの実際⑧	認知症の人へのさまざまなアプローチ、環境づくり	〃
10	認知症ケアの実際⑨	認知症の人の終末期医療と介護	〃
11	家族への支援①	家族への支援（家族の状況、家族介護者の介護力に影響をもたらす課題）	〃
12	家族への支援②	家族の心理状況の段階的変化、レスパイトケア	〃
13	介護福祉職への支援	働きやすい職場環境の整備	〃
14	認知症の人の地域生活支援①	地域共生社会における認知症ケア	〃
15	認知症の人の地域生活支援②、まとめ	認知症施策について、多職連携と協働、まとめ	〃

【授業時間外の学習】

- ・授業で学習したことは復習をしっかりと行い理解した上で、次の授業に臨めるようにすること。
- ・毎日のニュースや新聞から、認知症に関する情報は意識して得て、介護福祉士としての支援の在り方について各自でも考えること。
- ・予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・グループワーク時等は自己の考えを述べ、他者の意見に耳を傾け、主体的に学習すること。
- ・課題レポート等の提出期限は、必ず守ること。
- ・授業中は、集中して学習に取り組めるよう、日々の生活習慣を整えること。また、他者の学習の妨げになる行為はしないようにすること。

【オフィスアワー】毎週水曜日放課後 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】障害の理解

【教員名】武田 英二、上田 清人、森本 博通

【教員の実務経験】☐有

■無（医師資格及び経験を有する教員（武田）、介護福祉士資格及び実務経験のある教員（上田）実務経験のある教員（森本）が講義を行う。）

【授業方法】■講義 ☐演習 ☐実習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】障害のある人の心理や身体機能、社会的側面や制度に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害の医学的、心理的側面の基礎的理解をし、障害の特性に応じた支援を学習する。

【到達目標】学生が、障害者の社会参加や施策の変遷を理解し、障害者の身体機能や心理を学び、障害者に対するリハビリテーションや多職種連携について修得できることを到達目標とする。

【教科書】川井太加子・高木憲司編：最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第3版. 中央法規出版, 2026.

【参考書等】配布資料

【成績評価】■定期試験（100%）☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1P	障害の概念と福祉①	障害者スポーツの意義・理念、共生社会の創造と障害者の社会参加について理解する。介護保険制度	上田 清人
2	障害の概念と福祉②	障害者福祉制度と障害による心理的影響	森本 博通
3P	障害の概念と福祉③	障害の概念、障害者福祉の基本理念と制度施策とその変遷について理解する。 スポーツの諸施策（スポーツ基本法等）	上田 清人
4P	障害者の支援①	肢体不自由（運動機能障害）	〃
5P	障害者の支援②	視覚障害・聴覚・言語障害	〃
6	障害者の支援③	重複障害	武田 英二
7P	障害者の支援④	内部障害（心機能障害、呼吸機能障害）	〃
8P	障害者の支援⑤	内部障害（腎機能障害、膀胱・直腸機能障害）	〃
9	障害者の支援⑥	内部障害（小腸機能障害、肝臓機能障害）	〃
10	障害者の支援⑦	内部障害（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、重症心身障害）	〃
11P	障害者の支援⑧	知的障害	森本 博通
12P	障害者の支援⑨	精神障害	〃
13	障害者の支援⑩	高次機能障害	武田 英二
14	障害者の支援⑪	発達障害	〃
15	障害者の支援⑫	難病	〃

【授業時間外の学習】講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義には教科書、ノートを持参する。まじめに受講し、質問などにより講義内容の理解に努める。

【オフィスアワー】火曜日、水曜日、木曜日 16:30～17:30（上田・1号館事務所前）

【科目名】医療的ケア基礎

【教員名】津田 祐子

【教員の実務経験】■有（医療現場での経験のある教員が、介護福祉士として必要な医療的ケア（吸引・経管栄養）についての知識についての講義を行う。）

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】医療的ケア実施の基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また、介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 医行為とはどういうことか、その法的理解を述べることができる。
2. 介護福祉職等による喀痰吸引等制度と「医療的ケア」について述べることができる。
3. 安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を理解し、リスクマネジメントの考え方や仕組みがわかる。また、ヒヤリハット、アクシデントの報告が予防策につながることにについて述べるができる。
4. 救急蘇生、応急手当の基礎知識とその重要性を理解する。
5. 感染予防の基礎知識と正しい手洗い方法、うがい方法、介護福祉職自身の健康管理、感染予防としての手袋やガウンの着用効果について述べるができる。
6. 療養環境の清潔、消毒法、滅菌と消毒の違い、消毒税の使用上の留意点について述べるができる。

【教科書】最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第3版、中央法規出版、2026

【参考書等】適宜紹介します

【成績評価】■定期試験（100 %）□小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	医療的ケアとは	オリエンテーション、医療的ケア・医行為とは、チーム医療について	津田 祐子
2	医療の倫理について	医療の倫理、倫理上の原則	〃
3	喀痰吸引等制度	医療制度とその変遷	〃
4	社会福祉士及び介護福祉士法の改正	改正法による喀痰吸引等制度の概要	〃
5	医療的ケアと喀痰吸引等の背景	喀痰吸引等研修、介護福祉士養成課程における医療的ケアの学習	〃
6	その他の制度①	社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度、介護保険制度	〃
7	その他の制度②	社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度、障害者総合支援法	〃
8	その他の制度③	社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度、健康保険法・学校教育法	〃
9	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全の実施	〃
10	救急蘇生	応急手当、救急蘇生法の実際	〃
11	AED	AEDを用いた心肺蘇生の流れ、演習	〃
12	清潔保持と感染予防①	感染予防、介護福祉職の感染予防	〃

13	清潔保持と感染予防②	療養環境の清潔、消毒法	〃
14	健康状態の把握①	身体・精神の健康、バイタルサインなど	〃
15	健康状態の把握②	急変状態について、まとめ	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習をおこない講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまとめておくこと。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 毎週月曜日の昼休み 12：30～13：00（1 号館事務室前）

【科目名】ユニバーサルスポーツ

【教員名】宮本 實、中西 広大、河野 磨、遠藤 恭弘、車いすバスケットボールチーム

【教員の実務経験】☐有

■無（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を有し、種別・年齢層も幅広く指導を行っている。ゲートボールにおいても指導者及び審判資格を有しての長年の活動経験及び教育現場での指導経験を活かし、介護現場において実践的に役に立つ授業を実施する（宮本）。

健康運動士としての経験を有する教員が演習を行う（河野）。障害者スポーツの普及、指導、実践経験を有する教員が演習を行う（遠藤）。）

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】ゲートボールは健祥会の「会技」であり、スポーツとしてだけでなく規律を重んじ、人びとに接する時の接し方を含めた授業とする。地域の高齢者と、ゲートボール交流大会を行い話し合いの場を持つ。また、「健康」とは何かを考え「健康」でいるためにはどうしたらよいかを運動、筋力トレーニングの観点から学ぶ。加えて、対象となる高齢者や障がい者の健康だけでなく、自分自身の健康も考え、自らの健康意識（健康管理）を高め、介護予防運動についても学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. ゲートボールを通じて高齢者と会話する糸口を見出すことができる。
2. スポーツに限らず全てにおいて礼に始まり礼で終わる規律を理解できる。
3. ゲートボールでチームワーク・コミュニケーションの大切さを理解できる。
4. 私の就業経験を伝達することで実社会の規律を身につけることができる。
5. 運動の視点からの「健康」の概念を理解し、それに沿った介護予防ができる。自分の健康意識（健康管理）を高め実践し、セルフケア（腰痛・肩こり等）を行い充実した日々を送ることができる。
6. 初級パラスポーツ指導員として必要な、知識や実践力を身につけることができる。

【教科書】適宜資料配付

【参考書等】

公益財団法人日本ゲートボール連合発行：公式ゲートボール競技規則 審判実施要領 2015.

DVD、配付資料他

中村太一著：Q&A・上達ハンドブック①・②・③・④・⑤・理想の一手他

【成績評価】■定期試験（80%）☐小テスト ■課題レポート（欠席者のみ） ■その他（実技 20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	ゲートボールとは	講義 ゲートボール競技のあらまし 実技 ビデオを観戦とマナーを知る（挨拶・握手・有難う）	宮本 中西
2	ルールの詳細	実技 ゲートボール競技とはどのような競技かをコートで実践してみる	〃
3	ルールの詳細	講義 ゲートボール競技のルールについて説明① 実技 実践でプレーをしながら、ルールを覚えながら感覚をつかむ①	〃
4	ルールの詳細	実技 プレーをしながら、ルールを覚えながら感覚をつかむ②	〃
5	ルールの詳細	講義 ゲートボール競技のルール説明②と諸規定（ドーピング検査説明含む） 実技 紅白に分かれて試合形式の流れを知る	〃
6	ルールの詳細	実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実践で覚える①	〃
7	定期試験模擬 審判員について	講義 ゲートボール想定問題集の説明 実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実践で覚える②	〃

8	審判員の仕方	実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実践で覚える③ 審判員と競技者に分かれて審判の仕方及び競技者のマナーを覚える	〃
9	交流大会	実践 地域の方々と交流の中でコミュニケーションを図り、指導・アドバイス等を学ぶ	〃
10		ゲートボールの面白さを覚え、今後の活動に生かす	〃
11P	スポーツ指導者とは	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質を学ぶ	河野 磨
12P	障害者スポーツについて①	全国障害者スポーツ大会の概要について学ぶ	遠藤 恭弘
13P	障害者スポーツについて②	障がい者スポーツ推進の取り組みについて学ぶ	〃
14P	障がい者との交流①	障がい者にとってのスポーツの必要性、意義や価値について学ぶ	車いすバスケットボールチーム
15P	障がい者との交流②	車いすバスケットチームとの交流	〃

【授業時間外の学習】

- ・当該科目の重要性を十分理解し、講義内容を自分なりにノートにまとめること。
- ・運動については自ら実践する。
- ・予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・講義中は内容を理解することに努め、疑問点があれば積極的に質問をすること。私語や受講態度など講義中の姿勢については厳しく指導する。
- ・実技は運動できる服装で受講し積極的に参加する。(簡単な筋力トレーニング・ストレッチ等は実際に行ってもらふ) イヤリング・ネックレスは安全のため外しておく。長い髪は束ねておく。爪は切っておく。
- ・実技・講義中はスマホ禁止。守れない場合は授業前に回収する(急を要する場合は考慮する)。